

学位論文の要旨 (論文の内容の要旨)
Summary of the Dissertation (Summary of Dissertation Contents)

論 文 題 目
Dissertation title

リメイク映画とドラマにおける会話構造から見た日韓言語文化の視点
-隣接対と連鎖組織を中心に-

広島大学大学院国際協力研究科
Graduate School for International Development and Cooperation,
Hiroshima University
博士課程後期 教育文化専攻
Doctoral Program Division of Educational Development and
Cultural and Regional Studies
学生番号 D192439
Student ID No.
氏 名 朴 廷苑
Name Seal

本論文では、日韓リメイク映画とドラマにおける類似した場面での会話を比較し、隣接対、好まれる応答形式と好まれない応答形式、連鎖組織の拡張(前置き連鎖、挿入連鎖、後方連鎖)、それ以外に見られる表現はどの場面でどのような形で表れているのかを見ることで言語文化的な視点の考察を行った。

第1章では、本研究の序論として、本研究の目的、研究方法、研究対象、研究の意義について述べた。

第2章では、先行研究について概観した。まず、隣接対、好まれる応答形式と好まれない応答形式、連鎖組織の用語や概念を整理した上で、これまでの日韓の会話における言語表現に関する既往研究の成果について検討した上で、本研究の位置付けを述べた。

第3章では、日韓リメイク映画とドラマの類似した場面における表れている隣接対と総出現回数、隣接対の種類別頻度と順位を見た。このことによって、日韓の隣接対の比較を通じて日本語と韓国語の隣接対の相違について述べた。

第4章では、このような隣接対の分析の枠組みを基に日韓の好まれる応答形式と好まれない応答形式に見られる差を比較し、日韓の会話に見られる相違点と類似点に対して論じた。このことによって、日韓の応答形式の差を考察した。

第5章では、日韓の連鎖組織の拡張として前置き連鎖、挿入連鎖、後方連鎖がどのような形で表れているのか、その実例を検討し、このことによって、日韓の連鎖拡張に相違があるのかについて述べた。

第6章では、それ以外に見られる日韓の表現の差(例えば、上下関係と相との歳の差によって呼称、敬語など)を探り、どのような類似した場面に表れているのか、その実例を検討し、それ以外に見られる日韓の表現の違いについて述べた。

第7章では、第3章から第6章までの結果から、言語文化的な視点を探ってみた。日韓の類似した場面での会話に表れている隣接対、好まれる応答形式と好まれない応答形式、連鎖組織の拡張(前置き連鎖、挿入連鎖、後方連鎖)、それ以外に見られる表現を総合的に考察した。

その結果、1)日本語と韓国語の隣接対の多いのは、日韓ともに「質問/応答」であった。日韓の隣接対の差異を見ると、日本語の隣接対であまり現れず韓国語の隣接対では、「不満/応答」、「反問/応答」、「問い返し/質問」がある反面、韓国語の隣接対であまり現れず日本語の隣接対は、「意思伝達/問い返し」、「応答/問い返し」、「激励/応答」があった。韓国の隣接対は相手の話に対して直接的に感情を投げつけるような表現が頻繁に使われているのに対し、日本の隣接対は相手の反応や意向を見ながら、自分の意見を慎重に述べていることが分かった。また、日本の方が韓国より様々な隣接対を用いられた。日本は相手との順番をやり取りしながら様々な隣接対を行っている反面、韓国は日本より話者が知りたいことを問い連鎖の長さが短くなっている傾向があった。韓国は相手との会話の中で応答を早速達成させるし、会

話を終結させようとする事が確認された。

2) 好まれる応答形式と好まれない応答形式は韓国が日本より好まれない応答形式を用いられる傾向が多かった。日本の場合、相手との関係を配慮し、維持しながら最小限の相手での体面を傷つけないように好まれる応答形式を用いられることが分かった。それに対し、韓国の場合、親友が会社の上司について文句を言い聞き手が友だちの気持ちを理解せず、好まれない応答形式を使って、かえって友だちの腹を立てる結果をもたらした。また、親と子、上司と部下の関係の場合、目上の人は目下の人に体面を傷つける好まれない応答形式を行っていても、特別なこととは見なされないと確認された。

3) 連鎖組織の拡張として前置き連鎖は日本の場合、挨拶、天気の状態について説明を付け加えた後でベース隣接対が進んでいることが分かった。それに対し、韓国の場合、ベース隣接対が始まる前に、相手に挨拶、相手に呼びかけ、話しかけ後、話流れを進行していることが確認された。韓国語は相手に話しかけし、すぐベース隣接対に進んでいる傾向が多かった。挿入連鎖は、相手とのベース隣接対を形成して、次の発話が挟まっていることが日本と韓国が同じであるが、挿入連鎖の表現の違いがあった。日本の場合、話者が相手に間接的に気持ちを伝え、相手が話者の意図を確認しながら、会話のやりとりしている反面、韓国は相手に直接的に気持ちを伝え、相手が話者に再び問い返しを現れている傾向があった。後方連鎖は、相手に頼むことで連鎖が後方に拡張されるという点は日韓とも同じであるが、韓国が日本より相手の歳とか相手の評価することに連鎖をとどまらず、質問とか問い返しを表れ、連鎖が拡張する傾向が多くことが確認された。

4) それ以外に見られる日韓表現では、1) 気まずい雰囲気の中での日本語と韓国語の勧誘表現の場合、日本語は久しぶりに会う気まずい男女関係においてお礼をもって丁寧に発話をする傾向が強い反面、韓国語は気まずい男女関係において要点だけ言って挨拶や話しかけに応答しなくても許されると認識があると見られる。2) 別れを告げそれを受け入れる日韓の男女の様子を見ると、日本の彼は彼女を傷つけないように遠回しに別れを言い、彼女は別れの受け入れについて黙々と曖昧な感情を見せるが、韓国の彼は彼女を傷つけるのに構わず直接的に別れを告げ、彼女は彼の姿を見て心配している。さらに、彼の本心を確認するとともに積極的に話しの流れをリードしている。このように別れを告げそれを受け入れる日韓の男女の反応と表現に確かに違いがある。3) 年齢と呼称に関する反応の違いを見ると、韓国語は相手の年齢を知って人間関係の上下を区別する傾向があると同時に親族名称「오빠：兄ちゃん」を使うことで人間関係を維持しているが、日本語は1歳ぐらいの差は上下関係の区別に影響せず、気楽に彼女に愛称で「せっちゃん」で呼びかけ、親密感を表している傾向が見られる。4) 母親が新しい学校に転校した娘の悩み（新しい学校の同級生が身につけているものをほしがっている）に対する表現と反応の違いを見ると、韓国の母親はいい教育環境を備えた新しい学校に娘がなれたかどうかについて関心を持ち、重視している反面、日本の母親は娘の不満を理解せず、娘を説得するのに今の家庭状況でもまだと述べている。5) 地方の営業所に移動発令を受けた上司の初挨拶に対する職員の反応と表現の違いを見ると、日本の場合、職員が上司の職位を承知しているが、上司との握手のしかたを通じて暗黙に自分の存在を知らせることが見られる。それに対し、韓国は会社の職位と上下関係より相手の年齢が人間関係の位置をより強く定める傾向があった。6) 上司が初出勤した新入社員に対する表現の違いを見ると、韓国は新入社員の歳、学歴、履歴についてためらわずに尋ねる反面、日本は新入社員の履歴について問わず、ただ流行が遅れのスーツを着た新入社員の服装について言及している。このように、会社の上司が初出勤した新入社員に対する日韓の表現が対比されることが確認される。

最後に第8章では、結論として、研究成果を考察するとともに、本研究から得られた知見を基に、今後の課題について述べた。

備考 論文の要旨はA4判用紙を使用し、4,000字以内とする。ただし、英文の場合は1,500語以内とする。

Remark: The summary of the dissertation should be written on A4-size pages and should not exceed 4,000 Japanese characters. When written in English, it should not exceed 1,500 words.